



1 胆沢城跡歴史公園入口。国指定史跡を知らせる看板が出迎える 2 立体復元した築地と柱表示を行った外郭南門跡。胆沢城を囲んでいた土塀である築地は、長さ各15分をパネル工法で復元した 3 外郭南門跡の掘立柱構造の復元模型。重い瓦屋根を支えるために玉石が詰められている 4 アプリ「AR胆沢城」で外郭南門跡を再現したコンピューターグラフィックス画像



奥州遺産

——ときを越え

受け継がれるもの——

第106回

胆沢城跡歴史公園

(外郭南門地区)

水沢佐倉河字四月・九蔵田地内

胆沢城跡。坂上田村麻呂が802年に築いた城柵跡の一部が、今年6月に歴史公園として生まれ変わった。

整備されたのは、胆沢城の正門に当たる外郭南門地区。公園入り口から、南大路を北へと進んでいくと、そそり立つ築地が目前に迫ってくる。調査結果を基に復元された築地の高さは5・4層にも上り、胆沢城が軍事の拠点であったことを私たちに伝える。

築地の間には、かつて東北の古代城柵で最大規模の外郭南門が存在した。南門跡には、掘立柱構造の模型が設置され、当時の建築技法をうかがうことができる。また、スマートフォンなどで専用アプリを使用すれば、実物大の門を画面越しに見ることも可能だ。

1200年前、蝦夷と呼ばれた人々は、巨大な門を見上げて何を思ったのか。歴史公園で当時の空気を感じ取り、人々の気持ちに思いをはせてほしい。

広告

●広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197 64 1523)